

研究所だより

第118号 令和2年10月

発行:草津市立教育研究所

『^{そったくどうし}啐啄同時』の言葉を胸に

草津市教育委員会事務局 児童生徒支援課長 竹田 敏彦

今年、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため全国に緊急非常事態宣言が発令され、学校が臨時休校になるといった今まで経験したことがないようなことが起こりました。児童生徒支援課は生徒指導・人権教育・特別支援教育・教育相談等を主に担当しています。大きく変化する生活状況やそれに伴うストレス等が子どもに与える影響を考えると、「問題行動が急増するのでは…」、「不登校児童生徒が増加するのでは…」、「虐待の件数が急増してはいないか…」と様々な不安ばかりが浮かびました。そして、学校が再開したらそれらの課題が一気に噴出し、学校が荒れるのではないかと心配しました。

しかし、二転三転する状況の中、きめ細やかな配慮と子どもたちとのつながりを築く先生方の努力があり、子どもたちがスムーズに登校できる環境が整えられました。予想以上に穏やかにスタートし、子どもたちの声と活気が学校に戻ってきました。そして、新しい生活様式の中で無事に1学期を終えることができました。先生方の苦労には頭が下がる思いです。

今年度、児童生徒支援課では不登校児童生徒に対する取組の強化を行っています。草津市の不登校児童生徒の状況は全国と同様、年々増加傾向にあることから、教育研究所と連携し取組を進めています。

不登校には家庭的な要因、心身の状況、学習に起因する不安、対人関係の難しさなど様々な要因が複合しています。この子の不登校の主な要因は何か、

他にはどのような要因があるのだろうか。要因を多角的に分析し、その中の一つでも改善できれば、学校復帰のきっかけになると考えます。ただし、不登校の要因を改善するのは容易なことではありません。地道な取組が継続的に必要です。しかし、決して諦めず取組を続けていくことで、子どもや保護者からの信頼が得られると思います。学校復帰した不登校の子どもに「なぜ登校できるようになったの。」と尋ねたとき、「先生がいてくれたから!」という言葉が返ってきたら、今までの苦労が吹き飛ぶのではないのでしょうか。

普段、私が生徒指導を含む、子どもに関わるすべてのことで心がけていることがあります。それは、『^{そったくどうし}啐啄同時』です。この意味は、「またとない好機のこと。」「学ぼうとする者と教え導く者の息があって、相通じること。」とあります。また、雛鳥が卵から出ようと鳴く声と母鳥が外から殻をつつのが同時であるという意から、「雛が元気に卵から生まれてくるには、母鳥が卵をつついて殻にヒビを入れるタイミングが絶妙であること。早すぎても、遅すぎてもいけないということ。」を言います。つまり、子どもに対してよいタイミングで指導やアドバイスをすることが教師や保護者の役目であり、それが子どもの成長につながることだと思います。タイミングを逃すと最悪の状態になってしまう可能性があります。私はいつも『^{そったくどうし}啐啄同時』の言葉を胸に、絶妙なタイミングの指導を目指しています。



「GIGAスクール構想の実現」そのとき、どう変わるのか



草津市教育委員会事務局 学校政策推進課長 上原 忠士

「つながらない」「動きが遅い」「使い方が難しい」
「だから、ICTは・・・」などのストレスの原因
が払拭される。そして、子どもたちを誰一人取り残
すことのない深い学びにつながる授業ができる。こ
れが、「GIGAスクール構想の実現」です。市内全
小中学校で、そのときが近づいています。

去る9月16日、草津小学校で記念すべき「GIGA
スクール草津スタイル」のオープニングセレモ
ニーが行われました。真っさらな iPad を手にした
子どもたちが見せる喜びの表情や軽快に作動する
画面を真剣に見つめる姿が印象に残りました。この
子どもたちの姿は、11年前、本市が初めて電子黒
板を導入した時の光景と似ています。学ぶ意欲に満
ち、前のめりになって学習する姿勢は、見ていてわ
くわくしてきます。さらなる情報化社会を見据えて、
本市が進めてきたICT教育の推進は、このたびの
GIGAスクール構想により、スピードが加速し、
より強固なものとなります。最大の課題は、整備し
た環境をいかに有効活用へとつなげていくかとい
うことです。



1人1台端末、高速大容量のネットワーク環境
の整備は、巨額の費用を要する大事業であり、そ
の成果が求められると思います。もちろん、「どれ
くらい使っているのか」「授業では何時間使った
のか」と活用頻度を問う声があがるでしょう。確
かに、導入初期においては必要な数値評価と考
えますが、本質において、これらの質問に答えるた
めに行う努力は空虚です。端末は、これからの学
校では必要不可欠な文房具の一つです。教師主導
の教具としてではなく、児童生徒主体の文房具と
して活用していきます。しかし、あくまでも文房
具であり、「何度使うか」ではなく、「いつ、どの
場面でどのように使うか」「子どもの学びに向か
う力を育むための有効活用」が大切なのです。さ
らに、児童生徒には、文房具を大切に、悪用し
ないという情報モラルも求められます。

さあ、これからが私たち教職員の出番です。私
たち自身が意識を改革し、児童生徒と向き合い、確
かな学力を身につけさせるための効果的な授業づ
くりをしていかなければなりません。「子どもの学
びのためにICTで何ができるか」を考え、試行錯
誤しながらともに進んでいきましょう。よろしく
お願いします。



草津市教職員自己啓発講座

第1回

秋の作品展に向けて 5

～いきいきとした表現へ導くために～

9月4日（金） 講師：老上小学校教諭 山田 和美 さん

作品づくりで大事なポイントとは？

- 絵の中心は何か、中心は大きく
- 中心の周りの様子（場所はどこ？ 何があるの？）
- 大と小・集中と省略をつくる
- 技法や色の塗り方などは、しっかり指導する

など、たくさんのポイントを発達段階ごとの作品を提示しながら、具体的に指導していただきました。教師がたくさんの引き出しを持ち、子ども一人ひとりに様々な声をかけること（時には周りの子どもたちを巻き込んで）が大切だと教えていただきました。



制作中の作品を持ち寄り、悩みや疑問を出し合いました。山田先生は、制作している子どもの思いを想像しながら、一つひとつ、丁寧に答えてくださいました。

参加者の感想

- ・技法を学ばせていただいたのがよかった。描き方を学んだり、子どもたちが絵の表現を嫌いから好きになる方法を知ったり、とても勉強になりました。自分の中で、真ん中（絵の中心）をどうするか、どんなイメージをどう表現させていくか、悩んでいたことが解消されました。園に持ち帰り伝えていきます。
- ・実際にどうアドバイスしたらいいかを聞くことが出来て、とても勉強になりました。今の自分が持っている学年以外の学年のことも知ることが出来ました。子どもたちの考えや個性を生かせるような絵になるように頑張りたいと思います。
- ・想像から学ぶ、想像から広げるという図工の根底にあることを教えていただきました。私自身、図工に苦手意識がかなりあったのですが、教えるべきところはしっかり教えて、子どもたちをまきこんで任せるところは任せて、これからの学習に生かしていこうと思います。

講義後には、県教育美術展の作品を手にとることができました。間近で見たり、触ったりすることで、写真では分かりにくい技法などにも気づくことができました。





夏期研修講座から

今年はコロナ禍により、夏季休業が短縮されたり、三密を回避したりする必要があるため、従来の夏期研修講座ではなく、新しい生活様式に対応したオンライン研修を提案させていただきました。

その結果、校園合わせて 549 名の先生方が振り返りシートにご回答くださいました。(動画再生総数 1,329 回) 提出いただいたアンケートを参考に、今後も先生方の需要にお応えできる研修講座を企画したいと思います。

「NITS」オンライン講座(校内研修シリーズ)

研修評価(それぞれの動画に対する評価)

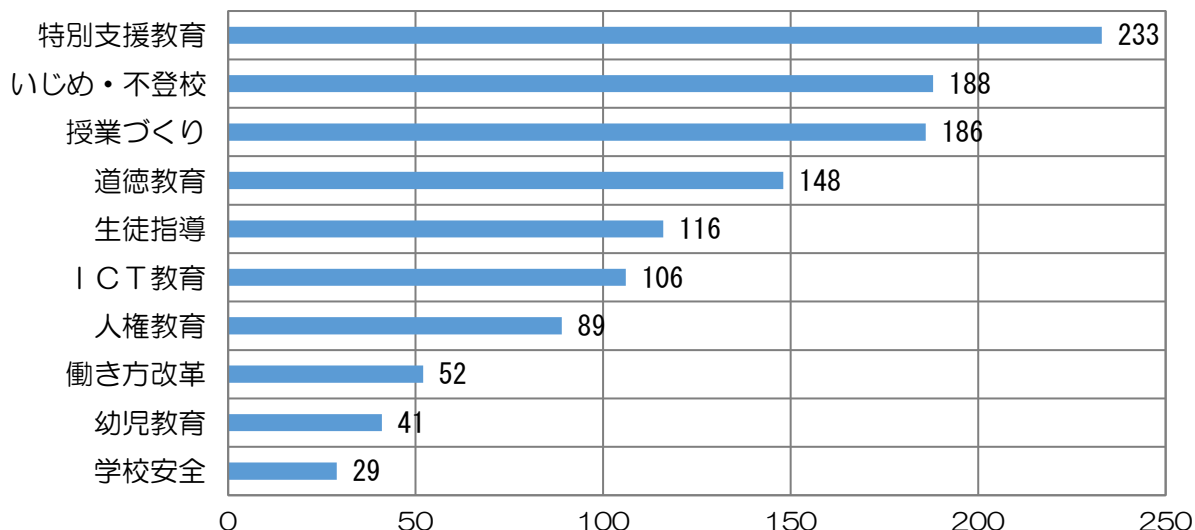
※1,329回再生の中で、
評価して下さった
997回分の結果です→

A:とても活かせる	439
B:活かせる	533
C:あまり活かさない	24
D:活かさない	1
計	997

視聴率 上位 10 講座(受講者総数の割合)

順位	講座番号	講座内容	視聴数	視聴率
1	17	特別支援教育の実際	102	18.6%
2	76	学校における ICT を活用した学習場面	95	17.3%
3	25	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて	94	17.1%
4	30	人権教育	89	16.2%
5	67	発達の段階に応じた道徳科の指導	70	12.8%
6	77	多様な学びの支援～新学習指導要領「障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫」を実現するために	67	12.2%
7	79	コーチングのスキルと活用Ⅳ～円滑な保護者対応に生かす～	67	12.2%
8	4	新しい学習指導要領において期待される学び	64	11.7%
9	46	道徳科に求められる評価	60	10.9%
10	47	不登校児童生徒の支援と教育相談	51	9.3%

ジャンル別 研修動画視聴数



<振り返りシートの感想より>

- ・質が高い内容を 20 分の短時間に、自分の都合で研修できたのは良かった。今後の研修スタイルの一つとして確立されるべきだと考える。
- ・普段、興味はあるが、なかなか受けられない研修についても受講でき、とてもよかった。
- ・夏季休業期間が短い中、少しでも多くの先生方に見ていただこうと、職員室のモニターに映し出し、意識の高揚を図ったことで、多くの先生方が視聴し、研修を深めていただけた。
- ・全国のスペシャルな講師による研修は、良い学びの研修であり、今後も活用したいと考えている。
- ・自宅でもスマートフォンでも視聴できることは、教員の働き方改革を考える上で大変大きい。
- ・1 コマ 20 分間というのはとても集中でき、たくさん受講してみようという気分になった。
- ・自分の視点・タイミングで研修できるのはいいが、直接話を聞く良さを味わったり、質問したりすることはできないのでオンラインだけでは頼れない。
- ・今年度の夏季休業期間の短さの中では、この形式でも受講時間を確保するのは難しかった。

*** 研究発表会 ***

講座名	研究発表会	開催日	8月25日(火)	出席者数	34名
-----	-------	-----	----------	------	-----



《Aグループ》

① 『『できる』『わかる』『やりたい』が生まれる体育学習

～主体的・対話的で深い学びの視点に立った指導の工夫を通して～

常盤小学校 教諭 青山 哲士 さん



② 「中学校社会科歴史的分野における深い学びを通じた

思考力・判断力・表現力の育成

～関連付けによる多面的・多角的な考察を通じた深い理解を目指して～

草津中学校 教諭 水谷 哲郎 さん

《Bグループ》

① 「幼児教育の改革期を乗り切る保育の展開と充実

～職員の『当事者意識』を引き出す～

矢倉幼稚園 副園長 竹村 文代 さん



② 「1年生の算数科におけるICTを活用した

情報活用能力の育成」


老上小学校 教諭 中井 善久 さん



<感想>

- ・昨年度の研究論文の報告を聞き、今年度の自分の研究の方向性が分かったような気がした。今年度はコロナの影響で研究授業等が実施できるかわからないという不安はあるが、できることから構成を考えていきたい。
- ・研究の内容よりもまず先生方の生徒に力をつけたいという熱意に感動した。自分の授業を振り返って、いかに場当たりの一方的な授業であるかを反省した。研究としては、仮説・実践・考察がきちんと論じられており、早くからしっかりと計画しなければと感じた。

論文作成講習会

講座名	論文作成講習会	開催日	8月25日(火)	出席者数	34名
講師	滋賀県総合教育センター学び力向上係 山本 毅 主幹				
		<p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究の系ロや方法について、順序立てて説明してくださって、とても分かりやすかったです。提出前の校閲については、研究論文だけでなく、今後指導案作り等、様々な場面で活かすことができそうです。 ・主題に迫るためのプロセスや変容の見取り方について知ることができ、論文作成に生かせそうです。どのような成果を得たいのか單元ごとに明確にし、それぞれに合った振り返りの仕方や視点を大切にして取り組みたいです。 			



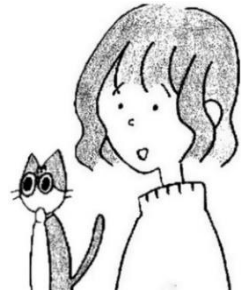
自己啓発講座について

回	講座名	講師	日時	場所
1	秋の作品展に向けて 5 ～いきいきとした表現へ導くために～	山田 和美 さん (老上小学校 教諭)	9月4日(金) 実施済 15:50~16:50	教育研究所 研修室
2	体育科における指導について	山田 淳子 さん (滋賀大学 講師)	10月13日(火) 15:50~16:50	老上西小学校 体育館
3	タブレット端末の活用について	<未定>	<未定> (15:50~16:50)	<未定>

本年度も勤務時間内に開催します。
各校に詳細を載せたチラシを配布しますので、
管理職に御相談の上、教育研究所まで
FAX(563-0117)で申し込みください。
たくさんの御参加お待ちしております！



スクールソーシャルワーカー SSW恒松先生が語る シリーズ教育相談



『黙って座り続ける体力』

学校で毎年行われる体力測定では「持久力」「瞬発力」等、様々な力が測定できます。

ある子どもたちを見ていると「静座力」とでもいうような「じっと座っていられる体力」や「黙って座っている為に使うエネルギー量」が測定出来たらと思うことがあります。



*授業に適切に参加できない子ども達が抱えている理由

- 脳内物質が脳内を駆け巡って、突き動かされるように体が動いてしまう
- 適切な焦点化が難しい。または、集中力に課題(過集中や注意散漫)がある
- 触覚や聴覚、視覚等に感覚過敏や鈍感さある
- 家庭状況が不安定で、不安を抱えている
- 固有覚や前庭覚(平衡感覚)に感覚過敏や鈍感さがある
- 教室の環境に不安がある
- 生活が乱れていて、十分な睡眠や栄養がとれていない
- 興味関心に大きな偏りがある

など、他にも挙げるとキリがありません。

*消費するエネルギー量

さまざまな課題を抱えながら授業に参加する為には、多大なエネルギーを要することが予想されます。

例えば、消費するエネルギー量が『課題を抱えた子が15分着席 > 課題の少ない子が50分着席』であるとして、1日生活すると「×6時間」。下校時には、彼らの疲れ具合は更に大きくなります。精一杯頑張っても「皆は50分座れるのに…」と言われてしまうなら、それはあまりに理不尽ではないでしょうか。



*しんどさの理解から支援へ

彼らへの最大のご褒美は「よく頑張っているね!」という褒め言葉と、本人の抱えるしんどさへの共感・理解だと言われます。彼らが困難を感じている原因を見つけ、高すぎるハードルは下げ、越えることが出来る様にステップを用意してあげる。そして、その工夫や支援を模索すること自体が、彼らの「しんどさを理解してもらえた」という実感にもつながります。

もし、彼らの額に「がんばりメーター」のような物があって、どれ程の体力が消費されているか、また、残っている余裕はどれ程かが見れば、もっと適切な言葉をかけられるのではないかと。また、彼らの抱える課題が目で見えるなら、もっと的確な支援ができるのではと感じます。



見えないものを見ていく目、子どもの内面への想像力を鍛えていきたいと思います。また、同様に、動き出すことに大きなエネルギーを要する子にも、小さな一歩を踏み出せた時には、それを過小評価せず、大いに認めてあげる事も大切です。



やまびこだより



エコガラスでオリジナル絵皿を作ろう！！

9月16日(水)信楽陶芸の森の陶芸家に来ていただいて『エコガラスでオリジナル絵皿』を作りました。作りたいものをイメージして、形にすることができるか少し心配していましたが、私たちの心配をよそに個性豊かな作品が出来上がりました。11月の展覧会に展示する予定ですので、ぜひ見に来てください。



やまびこ 秋の展覧会♪



日時：11月13日(金)～11月20日(金) ※土、日を除く

(11/20は午前中まで)

場所：教育研究所 研修室

子ども達のすてきな作品が並びます。どうかご覧になって芸術の秋を楽しんでください♪

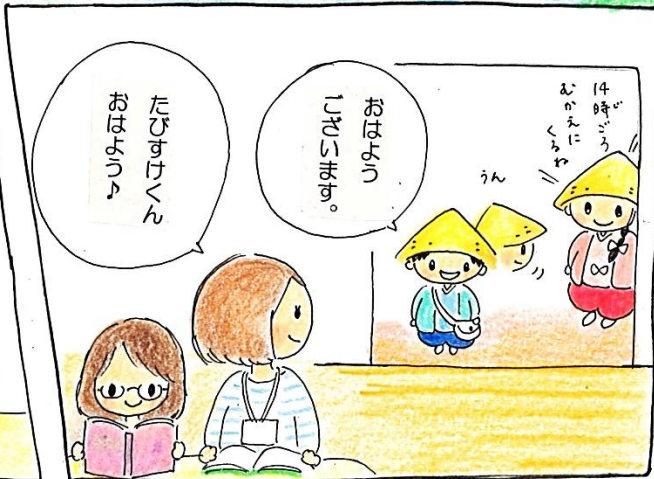
まずは安心できる空間を！

不登校の子どもたちの多くが、行けるものなら学校に行きたいと思っています。登校出来ない自分に対して罪悪感をもち、自己嫌悪にさいなまれていた子どもがほとんどです。まずは重圧感を取り除いてあげることが先決だと思います。

やまびこ教育相談室では、子どもたちの面談や小集団の活動を実施しています。指導員は、子どもが自分の思いを表出できるように信頼関係を構築し、安心できる空間づくりに努めています。不登校や不登校傾向の子どもたちや保護者の方々にやまびこ教育相談室をご紹介ください。先生方からのご相談もお待ちしています。

やまびこ、てどんなところ？

いつもの一日編





シリーズ 司書さんおすすめの絵本

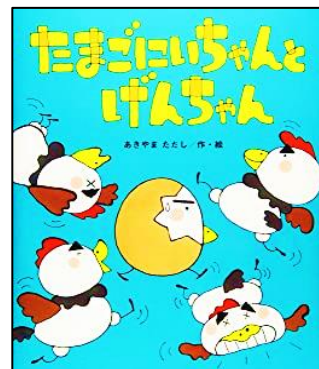


「たまごにいちゃんとげんちゃん」

(あきやま ただし 作/絵 すずき出版)

卵のままのニワトリ、たまごにいちゃんはカラが割れないよう気を付けて歩きます。一方、友達のげんちゃんは何でもやってみますが失敗ばかり。たまごにいちゃんは心配になり、なぜ失敗しても頑張るのか、げんちゃんに尋ねます。げんちゃんの答えは「成功するかもしれないから」。

失敗が怖いたまごにいちゃん、新しいことに挑戦するげんちゃんのどちらにも共感でき、読むと元気になれます。



「サイモンは、ねこである。」

(ガリア・バーンスタイン/作 なかがわ ちひろ/訳

あすなろ書房)

ねこのサイモンが、ライオンやチーターに「ぼくたち、にてますね」と言うと、みんなは大笑い。それぞれ特技が違うとわかりサイモンはしょんぼりしますが、やっぱり似ている気がするということで、みんなで話し合うことになります。

動物たちの絵に迫力がある一方で、表情は豊かに描かれており、とても魅力的です。セリフからもそれぞれの動物の性格が感じられる、見ても読んで楽しい作品です。



「すてきなステッキ」

(深見 春夫/作 PHP研究所)

「わたし」のおじいちゃんは、つついたものを素敵に変えるステッキを持っています。二人で散歩をしている時、おじいちゃんが落ち葉をつつくと、落ち葉は小鳥になりました。水たまりをつつくと、さて、何になったのでしょうか？

つついたものが意外なものに変わり、「わたし」とおじいちゃんの散歩は次第に大冒険になっていきます。次はどのようなのか、ページをめくるたびにわくわくします。



読み聞かせにご活用を